

# 宜野湾市「ふるさとの偉人」に学ぶ

市教育委員会では、本市にゆかりのある「ふるさとの偉人」から、先人たちの生き方とその功績を知ることにより、学校現場などで次の三つの取り組みへつなげたいと考えています。

みずからの生き方を学ぶ、「生きる力の教育」

未来に向かって夢を持てる、児童生徒の育成

郷土への愛着と誇りを育む、「ふるさと教育」

郷土の歴史・文化を学び、後世に伝え、地域文化を育む、児童生徒の育成

世界へとはばたく感性を育む、「国際化教育」

国際化や情報化社会を生きていく資質や能力を育む、児童生徒の育成

なお、今回選定された偉人については、教育長室にも掲示されています。

## 宜野湾市、沖縄県のみならず日本・世界の「歴史的な出来事」において、 中心的な役割を果たした人物



さつ  
と  
察 度

1321年～1396年(至治1(元亨1)年～洪武29(応永3)年)

中山王(在位1350年～95年)。謝名(現、真志喜周辺)に生まれ、田畑にあった金を用いて、餓えた人には食を与え、農民に農器を与えたとされる。それにより人心を得て、浦添按司になり、その後中山王に推された。1372年、明に初めて進貢し貿易を活発化させるなど、琉球繁栄の基礎を築く。その生誕に羽衣伝説がある。

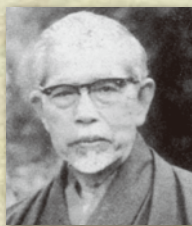
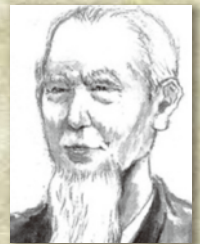
## 宜野湾市、沖縄県のみならず国内・外で「文化、芸術等の分野」において、中心的な 役割を果たすとともに、大きな功績を残し、地域の方々に語り継ぎたい人物

あにやまかる  
安仁屋 真苺

1837年～1916年(道光17(天保8)年～大正5年)

おもろ主取十三代目 最後のおもろ主取。字大山に生まれる。  
田島利三郎、はじめ初期のおもろ研究者は、宜野湾村大山の安

仁屋家を訪ね、真苺からおもろ(安仁屋本)を教示された。また、山内盛彬に「おみやだいいもろ」の王府おもろ五曲を伝授する。これらにより、現在のおもろ研究がある。



やまだ しんざん  
山田 真山

1885年～1977年(明治18年～昭和52年)

日本画家、彫刻家。那覇市に生まれ、東京美術学校に入学、高村光雲に師事し制作にはげむ。戦後は普天間にアトリエを構え、晩年は「平和祈念像」の制作に没頭する。伊佐交差点の「交通安全の塔」も画伯の作品である。ほかに代表的な作品として、明治神宮の「琉球藩設置」などがある。

おくざと しょうけん  
奥里 将建

1888年～1963年(明治21年～昭和38年)

方言・国語学者。字宜野湾に生まれる。京都大学国文選科で学び、県内や神戸で教員を務める。教員のかたわら、古事記・万葉集、琉球方言から四国・近畿方言など幅広い研究を行い、『院政貴族語と文化の南展』では、院政貴族の言葉などが琉球方言に影響をあたえたなどとした。ほかに『日本語系統論』など著書多数。



さきま こうえい  
佐喜真 興英

1893年～1925年(明治26年～大正14年)

民俗学者、法曹家。字新城に生まれる。東京帝国大学に入学し、卒業後は判事となる。民俗学等にも関心を示し、大学在学中に『霊の島々』を執筆する。判事となっても研究は怠らず『南島説話』や『シマの話』、『女人政治考』などの著書を執筆する。若くして亡くなり、柳田国男が民俗学にとって大きな損失であるとした。

問合せ: 教育委員会 文化課 ☎893-4430